

死刑囚絵画展 2005年 2014年

大道寺幸子基金の10年

死刑廃止のための大道寺幸子基金の死刑囚公募作品のすべて 9年間の応募作品全作品展示

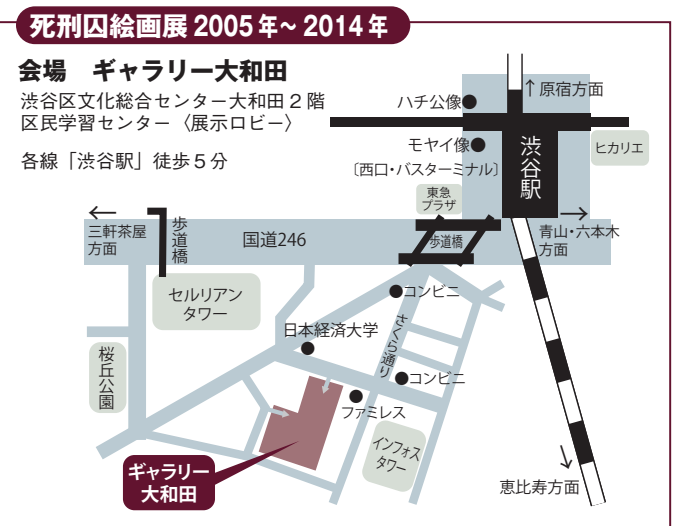
死刑囚が描いた絵を見たことがありますか？

いま、死刑囚が描く絵に、大きな関心が寄せられています。各地で開かれる死刑囚絵画展には、大勢の人が詰めかけて、一枚一枚の絵とじっくり向き合っています。ちよつと怖いけど、ちよつと哀しい。罪を犯した人がこんな色づかいで絵を描けるのか。心の叫びが聞こえてくるようだ。償いの気持ちや家族への思いが伝わってきた。きれいで怖くて不思議な気持ちになった、罪と命って難しいですね。これだけの表現力があることも心情もわかるが、なぜ事件を起こす前に踏み留まらなかったのか。冤罪を訴える人の作品の迫力に打たれた——

死刑制度への賛否を超えて、さまざまな反響が届いています。死刑囚が文章や絵画を通して自らの思いを表現する「死刑囚表現展」が始まって、今年は10年目です。東京では、たくさん作品を一挙に展示する機会をつくること、なかなかできませんでした。10年目を期して、その初めての試みを行ないます。またとない、この機会に、ぜひ、お越しください。



2点共：松田康敏（2012年3月29日死刑執行）
上・「タイムスリップ あの時代へ」2010年
左・「アサガオの花」2010年



2014年9月14日(日)～23日(火) 10時～21時 **入場無料**
(ただし、初日14日は15時～21時／最終日23日は18時まで)

ギャラリー大和田 東京都渋谷区桜丘23-21 渋谷区文化総合センター2階

主催 死刑囚絵画展運営会
共催 死刑廃止のための大道寺幸子基金／死刑廃止国際条約の批准を求めるフォーラム90
アムネスティ・インターナショナル日本

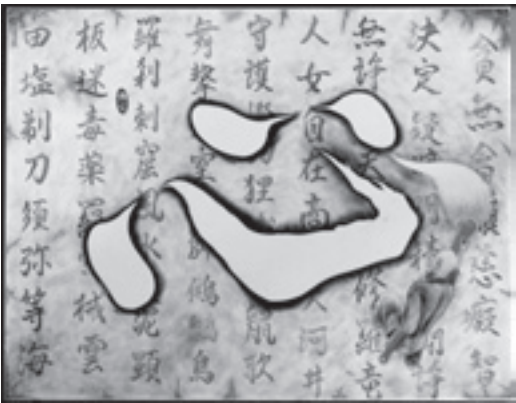
死刑囚 絵画展 2005年 2014年

「死刑廃止のための大道寺幸子基金」とは？

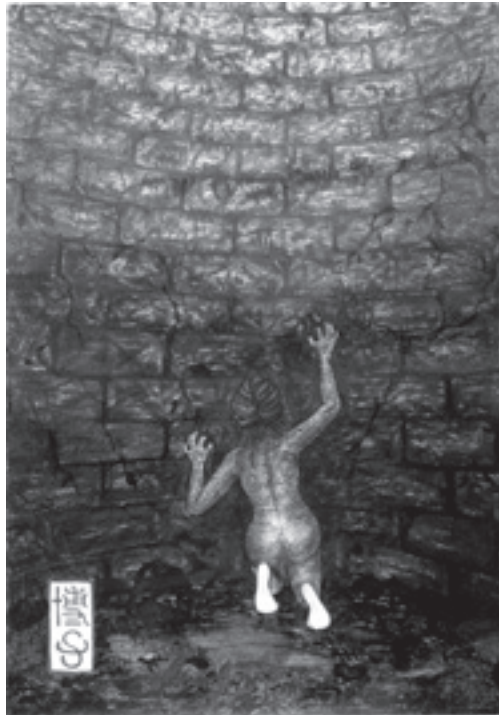
2004年5月12日に亡くなられた大道寺幸子さんは、生前多くの死刑囚や獄中者に面会し、励まし、生きて償う事を共に模索し、死刑囚の母として、社会、国際機関、メディアに対して、日本の死刑制度の実態、死刑囚処遇、死刑囚の人権について語り続けてきました。「死刑制度をなくしたい」「死刑囚の人権は保証されなければいけない」という幸子さんの遺志を生かすため、残された預金をもとに10年間という期間を決めてこの基金は創設されました。確定死刑囚の再審支援の補助金、死刑囚の表現展の開



「年越し菓子」2013年
藤井政安（1989年死刑確定）



「六十心」2013年
宮前一明（2005年死刑確定）



「潔白の罪」2010年（「無実という希望」と2枚組）
風間博子（2009年死刑確定）

催と優秀作品の顕彰のためにこの基金は使われています。9年間で34名の死刑囚から367点の絵画作品が、また文字作品も毎年多数応募され、そのうち5作品が単行本化されています。

死刑囚表現展の選考は、以下の方々によって行なわれています。

池田浩士（ドイツ文学者）／加賀乙彦（作家）／川村湊（文芸評論家）／北川フラム（アートディレクター）／坂上香（映像作家）／香山リカ（精神科医）／太田昌国（民族問題研究者）



「少女」2008年
金川 一（1990年死刑確定）

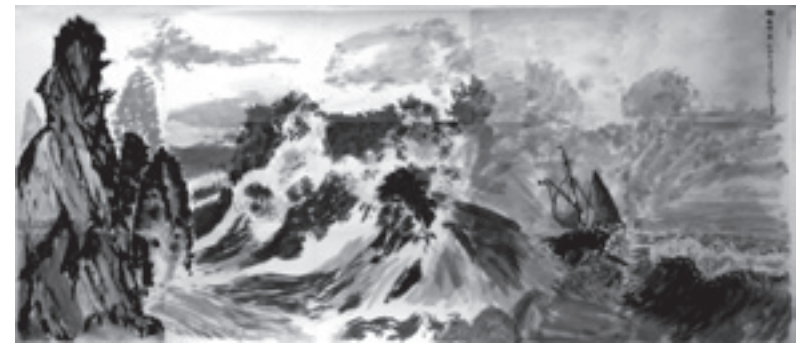


「神のなげきと救いの糸」2010年
北村孝紘（2011年死刑確定）

2014年公募作品は本年10月に公開します

世界死刑廃止デー企画
響かせあおう死刑廃止の声2014
四谷区民ホール（新宿区）
10月11日（土）午後1時から

応募作品の展示と選考委員によるシンポジウムも行います。
また10年目を迎えた基金、今後どうするかの方針も発表します。



「無題」2009年
謝 依佛（2012年死刑確定）

死刑廃止のための大道寺幸子基金

〒107-0052 東京都港区赤坂2-14-13 港合同法律事務所気付
TEL：03-3585-2331 FAX：03-3585-2330